

# 老健みやざき

第39号 令和2年4月



## CONTENTS

- 真のプロフェッショナル集団になるために  
～リハビリテーション専門職に求められていること～
- 怒りの連鎖断ち切ろう／災害を正しく恐れ、備える
- 新時代のリハを考える／活用しよう！介護ロボ
- 介護の魅力満載！不安の声にも応えました／  
延期しました第16回研究大会
- 会員施設（宮崎県内の介護老人保健施設）

上下：高鍋大師



# 真のプロフェッショナル集団になるために

～リハビリテーション専門職に求められていること～

(公社) 宮崎県老人保健施設協会

リハビリテーション研究部会委員長 中村豪志

私は、都城市に立地する介護老人保健施設こんにちわセンターで理学療法士をしております。介護老人保健施設（以下、老健）で働いて19年目になります。そして、公益社団法人宮崎県老人保健施設協会のリハビリテーション研究部会（以下、リハ部会）で活動すること11年になります。委員長も8年させて頂いております。今回、執筆の機会を頂きましたので、日頃リハビリ業務に関して感じていることを述べさせて頂きます。少しでも皆様のお役に立つことができれば幸いです。

## 1. 老健リハの現状

平成30年の介護報酬規定によって、老健の分類は「その他」～「超強化型」の5段階となりました。それ以降、全国的に強化型や超強化型の老健が増え、「老健=在宅支援」という図式が定着しつつあります。宮崎県においてもその傾向が著明です。

宮崎県の老健においては、このような潮流を受け止め、信頼されるリハ専門職となるため、リハ部会を組織しています。リハ部会は（公社）宮崎県老人保健施設協会の学術委員会のひとつです。宮崎県の老健のリハビリテーション専門職（以下、リハ専門職）からなる職能団体です。理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、音楽療法士が所属しています。毎年名簿を作成していますが、介護報酬改定の影響もあり、年々リハ職の人数は増加しています。はじめて名簿を作成した平成23年では43施設169名だったのですが、令和元年では45施設273名のリハ専門職が在籍しています（表1）。1施設で平均約6名となり、10名を超える老健も珍しくなくなります。老健は、地域のリハビリテーションを担う施設ですので、この傾向は望ましいことだと思います。

数は増えましたが、質はどうでしょうか。残念ながら、私が感じる限り、十分な質を備えているとは言い

切れないのではないで  
しょうか。

リハ専門職は、各種

の資格を取得します。

しかし、それはスター  
トであり、ゴールでは  
ありません。その後の  
研鑽が非常に大切であ

ると思います。リハビリテーションは、利用者様・ご家  
族様の人生に大きな影響を及ぼします。自宅に帰るこ  
とができるか、自宅に帰ることはできなくても、本人  
の望む生活や生きがいと一緒に作ることができるか、  
リハ専門職に係る責任はきわめて大きいと言えます。



表1 県内の老健施設数およびリハ専門職数の推移

年	施設数	リハ専門職数	平均
平成23年	43	169	3.9
平成24年	44	178	4.0
平成25年	44	195	4.4
平成26年	44	199	4.5
平成27年	45	217	4.8
平成28年	45	216	4.8
平成29年	45	222	4.9
平成30年	45	248	5.5
令和1年	45	273	6.1

医療技術や社会保障制度は、日々変化しています。  
学生の頃に習った知識・技術は現在では意味を成さないものも存在します。過去に適切とされた概念に基づいて治療をしていたとしても、それが現在でも正しいという保証はありません。

自分の行っている治療や支援方法はベストなものなのか常に自問自答し、最新の知識にアップデートしていく姿勢が求められます。そういう姿勢がプロフェッショナルだと思います。逆に言うと、そういう姿勢のな

い人はプロフェッショナルとは言えません。今一度、自分のリハビリテーションに対する姿勢はどうか振り返って欲しいと思います。

## 2. 真のプロフェッショナルになるために

では、どのような自己研鑽をすれば良いでしょうか。私が考えるその方法を少しお伝えしようと思います。

第一に研修会を利用することです。毎年、公益社団法人全国老人保健施設協会、各専門職による職能団体が企画する研修会が数多くあります。（公社）宮崎県老人保健施設協会でも、毎年研修会を企画しています。これらの研修会の中から、自分の興味のあるテーマや自分の弱点である内容の研修会を選んで、積極的に参加しましょう。全ての研修会に参加することは困難ですが、「年に2回」は最低ノルマとして設定してみてはいかがでしょうか。さらに、研修会は参加するだけでは効果は薄れます。参加した当日は充実感を味わうことができるでしょう。しかし、日にちが経つにつれて、せっかく学んだ内容を忘れてしまいます。そこで、必ず1ヶ月以内に資料や自分のメモを見直しましょう。もしくは、講師の文献や書籍を読みましょう。このちょっとした手間で、研修会を受講した効果がずいぶん違ってきます。是非、実行してみてください。

第2に、学会で発表しましょう。学会で発表することは、日頃の業務をこなしながら準備をしなければなりませんので、大変な労力です。しかし、準備する段階で発表テーマについて深く掘り下げ、知識や理論を整理し、自分の中で消化していく絶好の機会になります。また、日頃の業務を見直し、修正するきっかけにもなります。人間は弱い生き物ですので、何か強制力がかからないと本気で勉強に取り組むことはなかなかできません。学会で発表すると決めた時点で、「本番で恥をかいてはいけない」という強制力によって勉強せざるを得なくなります。その強制力をを利用して自分を追い込み、勉強の機会を得ましょう。

第3に、自己学習です。インターネットを活用して、文献や情報を得ましょう。現在は、医療・介護・社会福祉などに関する情報はインターネットで入手できる物が非常に多くあります。Google等でキーワードを入力すれば、様々な文献や資料をPDF等で入手することができます。ダウンロードして、オリジナルの文献集を作り、ファイリングしたりタブレットに保存したりして、いつでも読めるようにしましょう。また、インターネット上では、動画で実技や知識を学べるサ

イトも増えています。研修会に行く時間や金銭的余裕がない場合など、こちらも利用する価値がある十分にあると思います。ただし、インターネットを活用する場合は、入手元を確認し、信頼性の高い情報元を利用しましょう。書籍も一昔前に比べると質量ともに格段に充実しています。老健のリハ専門職は、生活環境整備や介護に関する知識を得意とする方は多いと感じますが、解剖学や治療原理などの医学的な知識が乏しくなる傾向にあると感じられます。自分たちが行っていることにはどういう意味があるのか、どういう根拠があるのかという重要な部分ですので、逃げずにがんばりましょう。

## 3. 今、リハ専門職に求められること

私が老健に就職する頃、「老健に勤務するためには歌って踊れなければいけない」という事を聞いたことがあります。レクリエーションの要素が求められていた時代だったのかもしれません。しかし、今、リハ専門職に求められていることは、歌って踊れるにこしたことではありませんが、第一には根拠に基づいたリハビリテーションを提供し、結果を出すということです。客観的評価によるADLの帰結、在宅復帰率などでリハビリテーションの効果を示すことが求められるのです。リハビリテーションを提供するだけではなく、提供した結果どうなったかというアウトプットが必要です。受け持つの利用者様のリハビリをこなし、決められた記録作業をすれば業務終了ではありません。質の評価が求められます。すわなち、自分たちの提供してきたことの内容が裁かれます。これは非常に厳しいことです。したがって、前述したような自己研鑽がますます大切になってきます。

また、リハビリテーション及び介護の世界でも、ロボットやAIを利用した方法が数多く開発されてきています。今後ますます増えることが予測されます。活用できるかどうかは施設の方針にも寄りますが、このような分野も勉強することが望ましいと思います。

以上のように、医療・介護技術の進化や制度の複雑化により、必要な情報が多くなっています。困っていることがございましたら、いつでも連絡が取り合えるようリハ専門職の名簿作成もしております。自分の中、施設の中だけで解決しようとするのではなく、他の施設や我々リハ部会にご相談ください。信頼される職能団体になれるよう、皆様と共に歩んでいこうと思います。

## 怒りの連鎖断ち切ろう

### 看護・介護研究部会



看護・介護研究部会は令和元年 10 月 12 日、JA・AZM 別館で「アンガーマネジメント研修会」を開きました。

講師は一般社団法人日本アンガーマネジメント協会のファシリテーター、海老

原昭生さん。まず近年問題化している職員の利用者への虐待事件に触れながら、「『思い出し怒り』は怒りの感情を增幅させます」と説明。また管理職も上手な怒り方、正しい指導の仕方がわからなくなっている現状を指摘しました。

ただし、「怒りの感情にはいい面も必ずあります」とし、スポーツ選手が怒りを練習への熱意に注ぎ、信念を持って取り組むことで周囲の若手選手のやる気をも引き起こした事例などが紹介されました。

「アンガーマネジメントの『アンガー』は『怒り』、『マネジメント』は『後悔しないこと』。『怒らないこと』ではありません。怒りの感情は必要。『怒る必要のあることは上手に怒り、怒る必要の無いことは怒らないようになること』と受講者に呼びかけました。また「怒りは第二次感情、氷山の一角」と切り出し、表面に出てきた怒りの下には不安や罪悪感、後悔などといった感情が潜んでおり、「利用者が怒っている時にはその下の部分には何があるのか耳を傾け、寄り添ってやること」と言い添えると、受講者は自施設での経験を振り返りながら聞き入っていました。そして「怒りの連鎖を断ち切りましょう。怒りの原因は外にあるのではなく、皆さん自身の信念、価値観に原因があります。怒りの原因がわかったら、自分の責任として考へないといけません。個人個人の怒りの感情に責任が持てないと、怒りの連鎖、負の連鎖が続きます。すべての人が自分の感情に責任を持てば怒りの連鎖は断ち切ることができます」と言葉に力を込めて講義を締めくくると、受講者からは感謝の拍手がおこられました。

## 災害を正しく恐れ、備える

### 在宅・支援相談研究部会研究会

在宅・支援相談研究部会は令和元年 9 月 20 日、宮崎市民文化ホールで「自然災害への対応」研修会を開きました。

講師は、宮崎県危機管理局危機管理課の金丸美保さん。「近年の風水害について」、「宮崎の自然災害について」、「災害対策について」という流れで進められました。この中で「宮崎の自然災害について」では、平成 17 年 9 月 4 日から 6 日かけて宮崎県を襲い、13 名の死者、5 名の重傷者、家屋の全壊 1,136 棟、半壊 3,381 棟など甚大な被害が起きた台風 17 号について、当時の映像を交えながら振り返りました。また「『台風の後には竜巻』と考えて下さい。竜巻は防ぎようがない」と強調した金丸さん。「宮崎県は竜巻の発生が全国第 4 位」と付け加えると、参加者は真剣な表情で聞き入っていました。

さらに「宮崎県は『地震の巣』と言われる日向灘に面しています」とし、南海トラフ巨大地震について解説がありました。13 市町村で最大震度 7、7 市町村で最大震度 6 強が想定されているこの地震による宮崎県の最大の被害想定（県想定）では、人的被害（死者

数）約 35,000 人、建物被害（全壊棟数）約 89,000 棟、避難者（1 週間後）約 40 万人など、具体的な数値を示すとともに、発生時の状況をシミュレートした映像を交えながら説明がありました。

その上で「地震は必ずやってきます。『正しく恐れて、正しく備える』ことが大事です」とし、「災害対策について」の話では、災害時の被害を抑えるための地域の防災力には「自助」（各家庭において自分の身を自分の努力によって守る）、「共助」（自治会や自主防災組織など、地域や近隣の人が互いに協力し合う）、「公助」（行政、消防機関などによる救助・援助など）があり、その具体的な内容を説明し、「この 3 つの連携と協力が必要不可欠です」と参加者に呼びかけました。

さらに宮崎県が県警察本部や気象庁、市町村などと連携し、災害発生時における防災情報、防犯情報、家畜疾病情報などを電子メールで携帯電話やパソコンにお知らせする「宮崎県防災・防犯情報メールサービス」への登録や、震度 6 弱以上の地震などの災害発生時に利用できる「災害用伝言ダイヤル『171』」の活用を呼びかけました。



# 新時代のリハを考える

## リハ研究部会

リハビリテーション研究部会は令和元年6月1日、宮崎リハビリテーション学院で研修会を開きました。

今回の研修会テーマは「老健リハビリテーションのス

タンダードと新しい時代のプラットホームの変化」。講師は理学療法士で熊本県の介護老人保健施設清雅苑の野尻晋一副施設長。老健リハ、ケアに関する様々な土台環境の変化を過去の介護保険改定や厚労省

部会、自施設の話も交えながら説明。老健の役割である



在宅復帰・在宅支援に向けての多職種による様々な介入の在り方や通所リハ、訪問リハ、地域包括ケアへの取り組みなど解説がありました。

また平成25年に福祉用具・介護ロボット実用化支援事業として、健康維持や重度化の予防、自立支援といった視点をより重視した制度に変え、AIやロボット、見守りセンサー、ICTなど様々な分野で最先端の技術を活用していくべく研究開発が進められていること、将来、空飛ぶ車椅子ができる「段差は障壁」という概念が消える時がくるかもしれないこと、また再生医療や臓器製造3Dプリンター、ナノテクノロジー、人間拡張などが考えられ、障がいの概念が変化し、領域と定義の変化により、リハビリ支援の方法など問われる時代が来ることなど、終始興味深い話でした。

## 活用しよう！介護ロボ

### 協会主催フォーラム

令和元年10月22日、ニューウェルシティ宮崎で「介護ロボット宮崎フォーラム」を開きました。厚生労働省の「介護ロボットの普及拠点事業」の一環として当協会が主催。当日は介護を学ぶ高校生なども参加し、講演会や展示会の会場は熱気にあふれました。



まず介護ロボット導入支援事業に係る宮崎県の取り組みについて、県福祉保健部長寿介護課の服部達哉主査が講演。介護ロボットの定義、介護ロボット導入支援事業の概要、対象となる

介護ロボットの要件、申請の流れおよび採択基準などについて説明がありました。



次に「食事介助時間を短縮するための工夫～配食選別ロボットの提案～」と題し（一社）宮崎県作業療法士会の津輪元修一會長が講演。厚生労働省が公募した介護ロボット関連事業を

（一社）日本作業療法士協会が受託、50の協議会を各都道府県に設置た中で宮崎県の協議会が取り組んでいる表題のロボットは、全ての食器に個人ごとにICタグがあり、間違いのない配膳ができる仕組みや、下膳の際配膳車にトレイを載せると、食事摂取量を記録する工夫などが紹介されました。

最後は社会福祉法人スマイリング・パークの山田一久



理事長による「ICT・介護ロボットを活用した特養等の実践と介護人材確保対策について～根拠のない恐怖は無視すべきである～」。同法人の特別養護老人ホーム、ほほえみの里におけるICT等導入の事例を紹介。業務が大幅に

効率化し、ケアの質も向上。深刻だった職員の離職問題も解決した事などを説明。「未来を見据えICT等を取り入れた人づくり」により職員は大きく成長したことを紹介し「私たちの目標」として「働く人の幸福度を追求し続ける」を掲げた後、笑顔で活き活きと仕事をしている職員の様子を紹介すると、受講者は身を乗り出して見入っていました。



## 学び深めたキャリアアップ研修

宮崎県の委託事業「キャリアアップ初級・中堅者研修」は県央、県西、県北の3会場であり、講義やグループワークを通じ介護職員として必要な知識や技術を学びました。



### 「排泄ケア」学んだ県央会場

県央会場での研修は令和元年10月22日、ニューウエルシティ宮崎で開催。テーマは「明日から活かせる排泄ケア～排泄環境の作り方・自立支援に向けて～」がテーマ。ユニ・チャーム株式会社他の方々が講師役を務めて下さいました。



講演「生涯自立排泄プログラムでご本人のADL向上と介護負担を軽減」では、フィジオセンターの理学療法士、田舎真由美さんが監修し、同社排泄ケア研究所が制作した同プログラムの解説が同氏よりありました。「オムツ交換時に使う筋肉や姿勢を意識して本人に動作を促し、できたら褒め、段階的に排泄動作を獲得する」という

プログラムの特徴を踏まえて実践した結果、排泄動作の自立度が向上し、有効性が検証されたこと等を事例も

交えた説明が行われました。

また「成功に導く排泄環境のつくり方」では、「排泄は見せたくない部分の肌の露出を余儀なくされ、便器やトイレットペーパーなどの排泄用具に肌が直接触れる行為のため、安心して快適に行える『場』の確保が必要」という排泄環境を整備する重要性を踏まえ、環境で快適な自立排泄をサポートし、排泄に援助を受けず自力で排泄できるようになると、快適性を大きく向上させることや、排泄は行為そのものよりもその準備と後片付けに関連する動作の方が複雑だが、環境の工夫で簡単にできるようになることを学びました。

介護業務の中で毎日欠かすことができない、大切な排泄ケアについて、わかりやすく学ぶ事ができた、大変有意義な研修でした。

### 県西、県北では「認知症」

県西会場の研修は令和元年11月9日、都城ウエルネス交流プラザで、県北会場での研修は11月30日、ベルフォート日向でそれぞれ実施しました。

最初の講義は「認知症～対応困難症例を通じて学ぶ～」。講師はハーモニーライフサポートの増田 登賜隆代表。まず「原因疾患と中核症状が理解できる～認知症の定義～」として、「認知症は病名ではなく、さまざまな原因によって脳の病的（器質的）変化が起こり、それによって認知機能が低下していくもの」であることを踏まえ、4大疾患である「アルツハイマー型認知症」、「血管性認知症」、「レビー小体型認知症」、「前頭側頭型認知症」について、それぞれの特徴を学びました。

そして「情報収集では目の前の言動に振り回されて、乏しい情報の中で答を出そうとせず、『なぜ』と考えながらさらなる情報収集に努める」、「情報の解釈には専門的知識が必要。認知症の原因疾患と中核症状を

理解しておく」などのポイントをふまえ、「介護支援はアセスメントからはじまります。アセスメントとは本人の思いから始まる良き理解者になるための思考プロセスです」と、認知症介護の思考プロセスとはアセスメントのことであり、アセスメントを通じて分析的理解、共感的理解を深めることの重要性を強調した増田先生に、会場からは感謝の拍手がおくられました。

続いて当協会リハビリテーション研究部会の中村豪志委員長の「高齢者に多い障害の理解とADLケアのポイント」、高齢者ケアプラン研究部会の竹内詠規委員長の「ケアマネジメント」がありました。明日からの業務での実践に取り入れられる有意義な研修で、受講者は自分の知識として身につけるだけでなく、自施設で共有し役立てようと、真剣な態度で臨んでいました。



## 介護の魅力満載！

### 「不安の声」にも応えました

元年度も制作「介護の仕事 PR パンフ」



「『介護の仕事』PRパンフレット」を令和元年度も制作しました。

「地域医療介護総合確保基金」に係る宮崎県の委託事業として当協会が平成27年度より取り組んでいるパンフレット、今年度のタイトルは「マンガでわかる！介護福祉士のお仕事2019」。子供の頃から

の「介護の仕事に就きたい！」という目標を達成し、介護の現場で活躍している介護福祉士の視点から介護の仕事のすばらしさを伝える内容です。

また今年度は「子供を介護の仕事に就かせるのは心配だ」等という親御さんの声があることを受け、県民アンケートを実施しました。1,260人からの回答を踏まえ、賛否両方の声を紹介しつつ、様々な制度や介護支援機器

の活用により大幅に改善されてきた介護職の「3K（きつい、汚い、危険）」や給与面の処遇を紹介し、介護の仕事に就くことを不安視する声に応えました。

今後ますます必要とされ、将来性のある介護の仕事の魅力を満載したこのパンフレットには、介護福祉士になるためのルート、そして県内の介護福祉士養成校も掲載し、介護福祉士への手引き書的な一冊に仕上げました。

宮崎県福祉保健部長寿介護課発行の「マンガでわかる！介護福祉士のお仕事 2019」は県内全ての中学生等を対象に配布しました。また電子ブック版として当協会ホームページでも閲覧できます。読者の一人でも多くの方が、私たちとともに介護の現場で働く仲間となつて下さることを願っています。

【電子ブックはこちらから】



<https://miyazaki-roken.jp/kaigobook/>

## 延期しました第16回研究大会

新型コロナウイルス終息後あらためて開催

新型コロナウイルス感染症流行に伴う大規模集会での感染を防止するため、令和2年2月29日（土）に予定しておりました第16回研究大会を延期とさせていただきました。事態終息後、改めて開催を予定しておりますので、日程が決まり次第、再度お知らせいたします。

大会参加、演題発表、大会協力等お申込みいただいた皆様におかれましては、ご迷惑をおかけし大変申し訳ございませんが、何卒ご理解いただきますよう、お願ひ申し上げます。

第16回

公社)宮崎県老人保健施設協会  
研究大会

延期いたします

令和2年2月29日 土曜日

10時開催予定

場所:JA AZMホール

## 会員施設（宮崎県内の介護老人保健施設）

施設名	郵便番号	住所	電話番号	ファックス
介護老人保健施設 神楽苑	882-1102	西臼杵郡高千穂町大字押方1130	0982-72-3210	0982-73-1082
介護老人保健施設 蟻邑苑	889-0101	延岡市北川町川内名7055-2	0982-46-2295	0982-46-3062
介護老人保健施設 シルバーケア新富	889-1406	児湯郡新富町大字新田481-1	0983-33-0120	0983-33-0221
介護老人保健施設 なでし園	884-0002	児湯郡高鍋町大字北高鍋3225	0983-23-8023	0983-22-5933
介護老人保健施設 信愛ホーム	880-2221	宮崎市高岡町内山2424	0985-82-5588	0985-82-5602
介護老人保健施設 サンフローラみやざき	880-1111	東諸県郡国富町大字岩知野字明久35	0985-75-2020	0985-75-2897
介護老人保健施設 はまゆう	889-1914	北諸県郡三股町大字蓼池660	0986-51-0001	0986-51-0010
介護老人保健施設 ハッピーライフ高城	885-1202	都城市高城町穂満坊455-2	0986-58-5566	0986-58-5567
介護老人保健施設 グリーンホーム	889-1911	北諸県郡三股町大字長田1270	0986-52-7011	0986-52-6168
介護老人保健施設 しあわせの里	889-2401	日南市北郷町大藤甲3589-1	0987-55-4800	0987-55-4507
介護老人保健施設 サンヒルきよたけ	889-1601	宮崎市清武町木原5886-16	0985-84-0333	0985-84-0700
宮崎市介護老人保健施設 さざんか苑	889-1702	宮崎市田野町南原1丁目6番地2	0985-86-1136	0985-86-4502
介護老人保健施設 さくら苑	889-4314	えびの市大字大河平4327-37	0984-33-2127	0984-33-5253
介護老人保健施設 菜花園	881-0026	西都市大字穂北字東原5253-4	0983-42-1122	0983-42-2210
介護老人保健施設 並木の里	881-0113	西都市大字下三財8124-8	0983-44-6066	0983-44-5109
介護老人保健施設 長寿の里	889-3531	串間市大字奈留5298-3	0987-74-1010	0987-74-2217
介護老人保健施設 メディケア盛年館	883-0051	日向市向江町1-196-2	0982-53-8788	0982-53-8780
介護老人保健施設 ラポール向洋	883-0021	日向市大字財光寺1131-24	0982-54-5016	0982-54-5018
介護老人保健施設 慶穂塾	883-0033	日向市大字塙見10947-1	0982-54-6541	0982-55-3209
介護老人保健施設 みずほ	886-0007	小林市大字真方87	0984-23-4152	0984-22-1239
介護老人保健施設 さわやかセンター	886-0003	小林市堤3008-1	0984-25-1234	0984-24-1748
介護老人保健施設 すこやかセンターこばやし	886-0004	小林市細野2033	0984-22-3397	0984-22-3423
介護老人保健施設 相愛苑	886-0006	小林市北西方字種子田原66-3	0984-24-1874	0984-24-1872
介護老人保健施設 みどりの丘	887-0023	日南市大字隈谷甲1218-1	0987-27-2525	0987-27-2529
介護老人保健施設 おびの里	889-2535	日南市飫肥6-1-15	0987-25-2012	0987-25-2013
介護老人保健施設 ハイム苑	887-0021	日南市中央通1-10-15	0987-23-0844	0987-23-5923
介護老人保健施設 マイ・グリーンヒル	882-0863	延岡市緑ヶ丘5-2-22	0982-32-8333	0982-32-5051
介護老人保健施設 トロみのる園	889-0516	延岡市鯛名町422-9	0982-37-3336	0982-37-6780
介護老人保健施設 エクセルライフ	882-0803	延岡市大貫町1-2850-1	0982-32-1550	0982-32-1553
介護老人保健施設 昭和苑	882-0867	延岡市構口町2-125-1	0982-22-3200	0982-22-3211
介護老人保健施設 ウエルネス苑都城	885-0053	都城市上東町27街区16号	0986-21-1006	0986-21-1007
介護老人保健施設 こんにち わセンター	885-0079	都城市牟田町4街区10号	0986-22-7100	0986-22-8055
都城市郡医師会介護老人保健施設 すこやか苑	885-0062	都城市大岩田町5812	0986-39-1107	0986-39-5559
宮崎江南病院附属介護老人保健施設	880-0916	宮崎市大字恒久字鳥の巣6245-1	0985-50-6070	0985-50-6076
介護老人保健施設 ひむか苑	880-2112	宮崎市大字小松1158	0985-47-3434	0985-47-5376
介護老人保健施設 エンゼルホーム	880-0125	宮崎市大字広原1350	0985-37-1588	0985-37-1556
介護老人保健施設 グリーンケア学園木花	889-2151	宮崎市熊野470-2	0985-58-3000	0985-58-8000
介護老人保健施設 あおしまのいえ	889-2162	宮崎市青島4-6-3	0985-65-1122	0985-65-2110
介護老人保健施設 ことぶき苑	880-0925	宮崎市本郷北方字池田4043-1	0985-56-6622	0985-56-6628
介護老人保健施設 春草苑	880-0041	宮崎市池内町数太木1749-1	0985-39-8899	0985-39-8978
介護老人保健施設 むつみ苑	880-0041	宮崎市池内町伊勢領1344	0985-39-9200	0985-39-9506
介護老人保健施設 シルバーケア野崎	880-0837	宮崎市村角町高尊2105	0985-28-6555	0985-28-6580
介護老人保健施設 東海園	882-0017	延岡市川島町1080番地5	0982-30-1661	0982-30-1665
のべおか老健 あたご	882-0846	延岡市中島町4丁目314番地3号	0982-34-7575	0982-34-7579
このはな介護老人保健施設	880-2104	宮崎市大字浮田1677番3	0985-82-8600	0985-82-8601

### 【編集・発行】

(公社) 宮崎県老人保健施設協会

〒880-2112 宮崎市大字小松 1158 番地 TEL 0985-47-3941 FAX 0985-47-3967

ホームページ <http://www.miyanazaki-roken.jp/> Facebook <https://www.facebook.com/miyazakiroken>